

【注意事項】

- 注意 1 本会議のレジュメは、11 月祭公式 Web サイト（<https://nf.la>）に掲載されております。ユーザー名およびパスワードは、事前に連絡したものをご利用ください。
- 注意 2 本会議のミーティングの URL やパスワード、レジュメ掲載ページのユーザー名やパスワードなどを他者に共有する行為は行わないでください。
- 注意 3 発言を希望する際には挙手をしてください。議長が発言者を指名するので、指名されてから発言してください。
- 注意 4 発言時には、企画名あるいは団体名と、氏名を述べるようにしてください。議事録作成中は、発言者を企画名あるいは団体名、氏名で記録しますが、閉会後に議事録が共有される際には、委員長および全学実行委員会内の組織、全学学生自治会同学会内の組織を除いては、アルファベットなどで置換します。
- 注意 5 本会議の円滑な進行を妨害する行為が確認された場合、当該行為を行った者に対して、委員長が退場を命じることがあります。
- 注意 6 本会議において、会議参加者に無断で録画・録音する行為は禁止されています。
- 注意 7 議決・承認は、対面参加者は拍手で行います。
- 注意 8 議決・承認後に離席者からの意見があれば、受け付けるものとしますが、その扱いについては個別に判断します。

【zoom 参加者】

- 注意 9 表示名は、「企画名_氏名」あるいは「団体名_氏名」としてください。
- 注意 1 0 発言時以外は、マイクをミュートに設定してください。
- 注意 1 1 議決・承認は、Zoom の「手を挙げる」機能を使用して行います。
- 注意 1 2 議決・承認において、離席者が存在するために会議参加者の一部または全部からの応答が得られない場合には、応答がない者を除いて議決・承認を行います。ただし、議決・承認後に、当該離席者からの意見があれば、受け付けるものとしますが、その扱いについては、個別に判断します。
- 注意 1 3 本会議は、本日 20:30 には、閉会します。

第4回 議事録

開会時刻 18:47

閉会時刻 20:36

委員長 開会する。注意事項読み上げ。

委員長 議事案について話し合う。

事務局 第64回11月祭全学実行委員会への提案と題されたレジュメを参照。この通りに提案する。

委員長 この議事案について、異議はあるか。

委員長 承認をとる。

(承認)

委員長 議事(1)第65回11月祭の日程についてに移る。

事務局 前回の全学実において、昨年承認された65回11月祭の日程について、大学から変更したいという旨の通達があった。曜日振替の都合であるという。前回の全学実での意見をもとに大学との協議を行った結果、全学の意見を踏まえた結果このような判断となったという回答が得られた。事務局としては、大学の姿勢は変わらないように感じた。本件について全学実で話し合いたい。

A レジュメに関して、大学のアカデミックカレンダーの作成期限が迫っているとあったが、具体的にいつか。それまでに何回全学実が開けるか。大学の希望した11月祭の日程について、本祭最終日の翌日が片付け日であるために休まなければいけないということであると思うが、そうしなければならない理由は何か。授業を並行して実施できないのか。

事務局 作成期限は今週～来週の頭までだと聞いている。2点目に関しては、最終日の夜までグラウンドにステージを立て、屋内でも企画を行っている。片付け日がなければ片付けが間に合わないためにこのようにしている。

B アカデミックカレンダーの期限に関して。作成している部署について質問したと思うが、判明したか。

事務局 教育推進学生支援部・総務企画課が中心となって作成しているとの回答が得られた。

B 話し合いは厚生課の人で行ったということか。全学の意見の中でもどの辺りの意見なのか考えていく必要がある。授業回数を確保するための圧力がどこから加えられていると見られると感じた。

A 先程の返答に対して。グラウンドに関しては確かに深夜に片付けできないのはわかる。グラウンドで実施する授業のみ振替することはできると思う。教室であれば、責任持って深夜にできるのではないか。片付けができないというのがわからなかった。

C 前回の対面開催を実施していた時期のカレンダーでは、2日間休みがあった。今年は3回休みになっており、減っていると思うが、それでも厳しいのか。月曜日が休みになることがそれほど厳しいのか。

事務局 2019年は勤労感謝の日の振替休日のため、日数に変更はない。曜日の兼ね合いによるものが大きいとのことであった。今年度の11月祭では月曜日が休講日になる日程である。11月祭の日程をどこにするかについて曜日振替の日数を事務局側でも計算した結果、大学側の

要望通りのものが得られた。

- C
事務局 新たに質問したい。片付けを深夜にすることについての提案は事務局側から行ったか。
大学との協議の際にこのようなことは提案していない。本当に片付けが間に合うのかという検討が事務局内部で十分にできていないためである。今後検討していきたい。
- C
事務局 例えば、今回の11月祭や次年度の11月祭では断念するかもしれないが、試験的に片付けを深夜に行って間に合うか確認してみることを大学側に提起することは可能か。
事務局 事務局内で検討したのち前向きに考えていきたい。今年度に関しては課外活動制限によって夜間の泊まり込みがそもそもできないので、その件については大学に確認していきたい。
- B
事務局 議事(1)については時間的な制約や当局の強硬な姿勢のため、全学実の意向通りには進まない可能性がある。はっきりとさせておきたいのは、11月祭が学生のものであるという議決をとって行っているわけなので、学生の都合を以てして当局側には決めてほしいという言質を取ることを目標としていくべきではないかと感じた。
- A
事務局 参考にさせてもらいたい。
- A
事務局 大学当局との交渉の場に全学実参加者が同席できないのか。昨年か一昨年も同じような議論はあった気がするが、事務局外の人間が交渉に参加できないのか。
事務局 昨年度の全学実行委員会にて同じような議論があったと記憶している。全学実参加者が交渉に参加することについて、人数の都合やそもそも参加することについて、大学側から渋られる可能性はある。
- A
事務局 昨年の議論の後では、実際に全学実参加者が交渉の場に参加することについて当局に交渉しなかったということか。
事務局 昨年に関しては、そのような意見が出たのは確かであったが、十分な議論はされていない。当局に確認したというわけではない。
- A
事務局 今年度は是非実際に活動しているサークルの声を届けるためにも、そのようなことを当局に働きかけてもらいたい。
- D
事務局 事務局としても、大学側に本件について確認を取りたい。
- B
事務局 当局に聞くと渋られるように感じる。確認を取らずにその場の反応次第で交渉した方が良いと思うが、それについてはどうか。
- B
事務局 Dの意見について。同意である。大事なのは当局にお伺いを立てることよりも何の話をするのかを事前に話し合った上で交渉の場で話していくことではないかと思う。片付けについても意見は固まっていない。どのような話をするかを学生側でしっかりまとめていきたいと考える。
- B
事務局 他に意見や質問はあるか。
- B
事務局 今出た意見について、事務局がどう考えているのか見解を教えてほしい。
事務局 全学実の中で学生の中で話すことを事前にしっかりまとめていくことについて、その通りであると思う。
- D
事務局 確認を取らずにまず行ってみる、という私の意見についてはどうか。
事務局 全学実の中で内容を話し合った上で、大学に確認なく行くことについて問題ないと思う。
- B
事務局 そうであれば、実際に交渉に行く日時を後日全学実参加者にメールしてもらうか、この場で募ることになると思う。日程の部分に関してもそのようにしていいと思うが、さらにこのような姿勢が必要となるのは議事(2)であると思う。

- 委員長 この件について、何か意見はあるか。
- A 学生の意見をまとめることについて、同意する。今回の全学実の開催形態が意見をまとめづらくしているように感じる。具体的には、全学実への提案という資料があり、意見を集約するのが今の状況だと思う。先に公開されたレジュメについて公開コメントができるような形を整備し、その上でそれぞれの立場で全学実に臨むべきであると考えている。
- 事務局 検討させてもらいたい。
- B (1)の議題についてはそろそろまとめた方が良くと思う。次回の日程は当局の日程をある程度呑まざるを得ないが、こちらの姿勢はそれほど崩さないようにするべき。片付け日について考えるときに、本当に休講しなければならないのかという点については一考の余地があり、今年と来年度の11月祭を通して確認していくという旨を大学に伝えるべきであると思う。
- 委員長 事務局に確認したいが、議論はこれで十分だと考えているか。何か事務局として決定したい事項はあるのか。
- 事務局 議論が十分かについては全学実参加者がそう考えていればそうであると思う。全学実行委員会が提案した日程を通すことが非常に厳しい状況であり、時間もないため、今回に関しては大学の日程通りにせざるを得ないと考えている。
- E 日程の話詳しくわかっていないが、根拠として3つある。日曜日が参加人数が多いからという根拠は当局にとっては妥当でないように思う。論拠を練った上で話し合わなければならない。現状では議論をするにしても平行線をたどるほかないように思う。仮に日程変更を求めるとしても、もっと洗練された意見や議論ができたのではないかと思う。
- A Eの意見に対して。参加人数が多いことについて、祭りの本質的に重要であると思う。その上で、具体的なデータの話をする、Aは2019年度の売り上げが平日800食弱であった。土曜日が1000食弱であった。日曜日は1300食程度である。人の量が倍近く違い、条件が全く違うのだということを主張しておきたい。
- E 確かに日曜日のほうが人は多い。売り上げを必要とするサークルにとっては重要なことであると思う。売り上げの違いが各団体にとってどれほど切実であるかという話であると考え。片付け日が日曜日であった例は過去にあるか。
- 事務局 過去の日程についてはすぐに資料があるわけではないが、今探した方が良いか。
- E 自分で探して解決する。
- 委員長 他に意見や質問はあるか。
- A 今回深夜に泊まれないということであるが、前日は休講する必要はないのか。なぜ準備は間に合うのか。次回の日程については諦められそうであるが、今回の開催形態が喫緊の課題であるため、時間的にも次の議題に移りたいと考えている。
- 事務局 前日の休講について。準備は教室でなくても事前に別の場所でできるが、片付けはそうはいかないため、前日は休講日としていない。
- 委員長 個人としては、特段意見がなければ次の議題に移って良いと考えているが、事務局はどうか。
- 事務局 次の議題に移って良いと考えている。本件については次回の全学実などでこれ以上話し合うべきであるか。
- 委員長 今回姿勢を決定したいということか。

- 事務局 時間的にも、今回決着させたいと考えているため、結論を出したい。
- 委員長 第 65 回の日程について、提案と異なる日程が採用されることについて、強く反対するものがあれば議論を続けるということか。
- 事務局 その認識である。
- 委員長 大学が希望する日程について断固反対する方はいるか。
- 委員長 いないようなので、今回の議論について強く意見を発言しておきたい人はいるか。
- D 今回に関してはこのような結論となったのは仕方ないが、再来年度に向けて、アカデミックカレンダーが出される前から議論を重ねていきたいと考えている。早めに日程については話していきたいと思う。
- F 決着をつけるというのは、大学側と交渉して決定を下すということか、それとも事務局が判断するのか。
- 事務局 決定期限的にも全学実を開けるのは最後なので、交渉することは可能であるが、その場が最後の判断になると思う。
- F 日程の周知についてははっきりさせたほうが良いと思う。
- E 第 58 回では祝日に片付け日という事例があった。このような前例がある。休講日数も変わっていないように思うので、前例がないという主張はあまり通用しないと感じた。当局側と話し合うときに、学生側でも前例を知っておく必要がある。
- A 祝日が水曜日ということは、日曜日に開催しているということであり、日曜日にやっていないという前例ではないと思う。
- E 日曜または祝日という話であり、その意味での前例である。前提が伝わっていなかった。他にも前例を探してみるが、日曜日が片付け日という前例はあったのではないかとと思う。
- D F の話で、1 度交渉してみて判断するという形になるのではないかとされていたが、それでいいのか。日程の周知はメールで今回の全学実参加者に周知するという形になると思う。この場で決定してもいいと思うが、どうするのか。
- 事務局 質問の回答とは異なるが、交渉に関して、全学実参加者が同席することを大学に言わずに行くことはやはり大学との関係性を踏まえても事務局の立場ではすべきではないように思う。全学実参加者のみでの話し合いについてはこの場で考えてもいいのではないかとと思う。
- A 全学実参加者のみでの話し合いになるのはなぜか。運営側とサークル側で折り合いをつけなければ話し合いができないと思う。全学実として事務局は当局と交渉しており、これに関しては全学実で話し合われるべきなのではないか。
- 事務局 「のみ」は不要であった。全学実参加者の交渉に事務局が実務機関として同行することは可能である。
- E あくまで事務局は団体名にある通り、全学実の下部組織として動いているというのが共通認識である。事務局が全学実の決定に基づいて行動するのはそうであるが、実務を担う機関である。事務局の意味を文字通りに捉えろと思いをしってしまう。当局にとっては事務局が交渉相手であり、歴史的に築かれたものである。全学実の決定だけに基づいて事務局が行動するのは、交渉の前提が崩れてしまうのではないか。11 月祭がうまく回っている理由がどこかにあるように感じた。
- 委員長 事務局の立場を全学実行委員会の場で確認するべきであるということか。
- E 事務局の立場は第 1 回で承認されていた。事務局という組織自体の立場性を明らかにする

ことは無茶である。事務局に任せるとしか言いようがない。将来的な交渉のためにも、事務局にある程度一任する流れになるのではないか。先程の質問は私の意図とは違った。事務局と全学実の関係性は難解である。必要に応じて事務局が判断をしていてもいいと感じる。

委員長 解釈違いがあったら申し訳ない。

C F・Dの発言を受けて、次の開催日程に関しては特に全学実参加者にとって、日曜日も開催日に含めた交渉は事務局にお願いし、無理であれば大学側の日程を呑むということで問題ないと感じた。

委員長 何か意見はあるか。

D 今後の交渉の実態を作っていくという意味でも、全学実参加者も交渉に参加できるのであれば参加したいと思う。日程については時間がないが話したい。するのであれば、事務局も参加できる日程で行いたい。

事務局 Eの意見に対して。確かに、事務局は全学実の下部組織である。全学実は全会一致の承認をもとに動くが、反対者がいるのであればそれを全学実の意思としてよいのかという点はある。

E 事務局としても解釈違いがあるかもしれない。執行するという組織として、どのように行動するかは事務局の判断に任せざるを得ない。実施の根本、あるいはその前提を揺るがすような事態を引き起こすような行為はしないと思う。全学実にとって事務局がブラックボックスであったとしてもある程度の信頼があるからだと考える。反対者がいた事例は実際にあったが、実施に大きく支障をきたすような事例ではやむを得ないこともある。

委員長 時間が迫っているので、次を最後の意見としたい。

A レジュメの3番の内容ができていない。これは大きな問題である。次の当局との交渉までに全学実を開き、この内容について話し合うことを強く要求したい。

委員長 事務局の返答を求める。

事務局 当局との交渉というのは、日程のことではなくレジュメの3番についてか。3番の内容であれば、できる限り早く全学実を開催したいと考える。

委員長 最後に議事録の承認を取る。

(承認)

委員長 時間を過ぎているため、これにて閉会する。次回日程は後日告知する。